

宇都宮市スポーツ施設整備計画【改定版】の概要

第1章 計画の策定にあたって

計画策定の目的

- 既存スポーツ施設の現状、課題などを的確に把握し、利用者ニーズに対応したスポーツ施設整備を計画的に進めて行くため、本計画を策定するもの

計画の位置づけ

- 「宇都宮市スポーツ振興基本計画」の重点施策・事業の1つである「スポーツ施設の整備・充実」を実現するための計画

計画期間

- 平成19年度～平成27年度までの9年間

計画の改定について

- 平成20年3月、市町合併に伴い改定
- 平成24年3月、中間見直しに伴い改定

第2章 本市のスポーツ施設の現状と課題

1 スポーツ施設の現状

(1) スポーツ施設の量

- 主要なスポーツ施設の量はある程度確保されている。
(県庁所在地46市の比較 体育館34位・野球場13位・プール14位)
(中核市40市の比較 体育館18位・野球場2位・プール6位)

(2) スポーツ施設の質

- 昭和50年代に整備された施設が多いため、老朽化している。
- 冷暖房設備、更衣室、トイレなどの利便機能が不足している。

(3) スポーツ施設の利用状況

- 全体的には、やや増加傾向にある。
- 種目別では、サッカー・テニスが増加し、プールが減少している。

2 施設に対するニーズ

(1) 身近な施設づくり

- 市民は、身近な場所で年間を通した多様なスポーツに利用できる施設を望んでいる。

(2) 高齢社会に対応した施設づくり

- 高齢者を中心にウォーキングなどの人気が高まっている。市民は、健康づくりや生きがいづくりのため、運動やスポーツを実施していると考えられ、こうした運動ができる施設を望んでいる。

(3) 利便設備の充実

- 市民は、快適な環境でスポーツを実施できる施設を望んでいる。

(4) 競技スポーツに対応した施設

- 競技団体は、大会を運営する上で、競技性の確保が図れるとともに、全国大会などレベルの高い大会を誘致できる施設を望んでいる。

3 本市のスポーツ施設の課題

1 老朽化への計画的対応

2 施設の質・機能の向上

3 身近なスポーツ施設の確保・充実

4 民間や県との役割分担

5 災害時拠点としての施設の安全性確保・機能の充実

第3章 スポーツ施設整備の基本方針

1 老朽化に対応した整備

- 老朽化が著しい施設から優先的に整備する。
- 東日本大震災による被災状況などを踏まえ、機能縮小や統廃合について検討するとともに、拠点施設などについては、更新や機能向上策についても検討していく。

2 施設の役割に対応した整備

- 全市民が利用できる「全市対象施設」と地域の利用が中心の「地域対象施設」に分け、全市対象施設のうち、全国レベルの大会等が開催できる施設（拠点施設）を中心に機能向上を図る。
- スポーツの総合的拠点として、市体育館にスポーツに関する相談や学習、指導者養成、情報提供などを行うスポーツ振興機能が果たせる整備を検討する。
- 災害に対する安全性を高めるとともに、災害時に迅速に被害状況を確認し、対応できるよう防災機能の向上を図る。

3 プロスポーツに対応した施設整備

- プロスポーツの試合会場や練習場となる施設については、競技場、照明設備などが、基準を満たすことができる整備に努める。

4 利便設備の整備

- スポーツを通じた交流・コミュニケーションを促進する機能を市民スポーツ施設に導入する。
- スポーツ施設のバリアフリー化を推進する。

5 民間や県との役割分担を図った施設整備

- 民間での事業化が困難である体育館や野球場、サッカー場などの大規模土地利用型の施設の整備・改修を中心に取り組む。
- 市民のための各種スポーツ大会や行事に供する施設を整備することを基本とするが、既存の施設のうち、全国規模の大会も開催可能な施設については、引き続き、その役割や機能が果たせる整備を行う。
- 県の「総合スポーツゾーン構想」を視野に入れるとともに、県との協議を行うなど、連携を強化したうえで進めていく。
- 大学や民間企業、県立学校のスポーツ施設の開放について、さらなる活用の可能性を検討していく。

第4章 主要なスポーツ施設の整備方向

■ 整備の優先順位

- 本市スポーツ振興の総合的な拠点である市体育館の再整備に最優先に取り組む。
 - 市民レベルの野球の拠点であり、老朽化が著しい野球場を含む、宮原運動公園全体の今後の施設のあり方について検討を行う。
 - その他の施設については、老朽化の状況を考慮したうえで、施設の位置づけにも留意しながら、整備を進めていく。
- ※ 避難所に位置づけられている施設については、防災機能の向上に努めるとともに、施設の耐震化を進める。

■ 主要な施設の整備の方向

- 市体育館 ⇒ 国内トップレベルの大会や一部プロスポーツの開催にも対応できる施設として、大規模改修を実施するとともに、防災機能の充実も含め、機能向上を図る。スポーツに関する情報発信の拠点としての機能の充実を検討していく。
- 宮原運動公園 ⇒ 野球場は、照明設備を廃止し、日中利用に機能を縮小した上で、市民レベルの野球や少年野球利用に対応可能な施設として、活用を図る。公園施設全体の老朽化を受け、将来的な公園全体のあり方を検討していく。【縮小】
- プール ⇒ 駅東公園プールは、市民の健康づくりや体力づくりの場として、機能の充実を図っていく。これまで「廃止の方向で検討」としていた水上公園プールは、平成23年度で廃止する。【廃止・拡充】
- 市民ニーズの ⇒ 市民の健康増進や体力向上のためのトレーニングやレクリエーション等に活用できる施設も含め、施設のあり方や整備変化に対応 備について検討していく。【新規】